

1. 調査研究の概要

1.1 調査研究名

観光におけるITの利活用に関する調査研究

1.2 実施期間

平成15年8月18日 ~ 平成16年3月31日

1.3 目的

本業務は、政府の「e-Japan戦略」等に基づき、2005年に実現される世界最先端のIT国家のイメージを世界にアピールする「e!プロジェクト」の一環として、前年度に実施した調査研究「インターネット基盤技術の高度化(e!プロジェクトの推進)に関するシステムの実証及び調査研究に係る請負-道路や公園等公共的なオープンスペースにおけるITの利活用の在り方について-」を引き続き実施した。

前年度は、「オープンスペースにおけるITの利活用」をテーマに、六本木ヒルズ(東京都港区)、およびアーク森ビル(東京都港区)を実験対象地区とした基盤技術研究を実施した。具体的には、モバイルIPv6に対応した無線LAN環境を構築し、マイクロモビリティ技術を用いた高品質シームレス接続機能や位置情報管理機能等を使ってオフィス業務支援向けアプリケーションと周辺情報提供用アプリケーションを開発し、その動作性を検証した。

本年度は、前年度の成果や構築したシステムを活用し、公共的オープンスペースの性質等を考慮し、観光等を目的として公共的オープンスペースを訪問する来街者等を対象としたモバイルIPv6技術の活用方法を研究し、その有用性を検証した。具体的には、前年度で構築したモバイルIPv6設備を活用し、その上に必要となるシステムを追加開発し実証実験を行うことにより、14年度から継続する調査研究を基盤として、モバイルIPv6技術の有用性に関する、より定量的、定性的な評価を実施した。同時に、サービス実現にあたって弊害となる課題を抽出した。

1.4 調査研究体制

図 1.4-1に本調査研究の体制を示す。

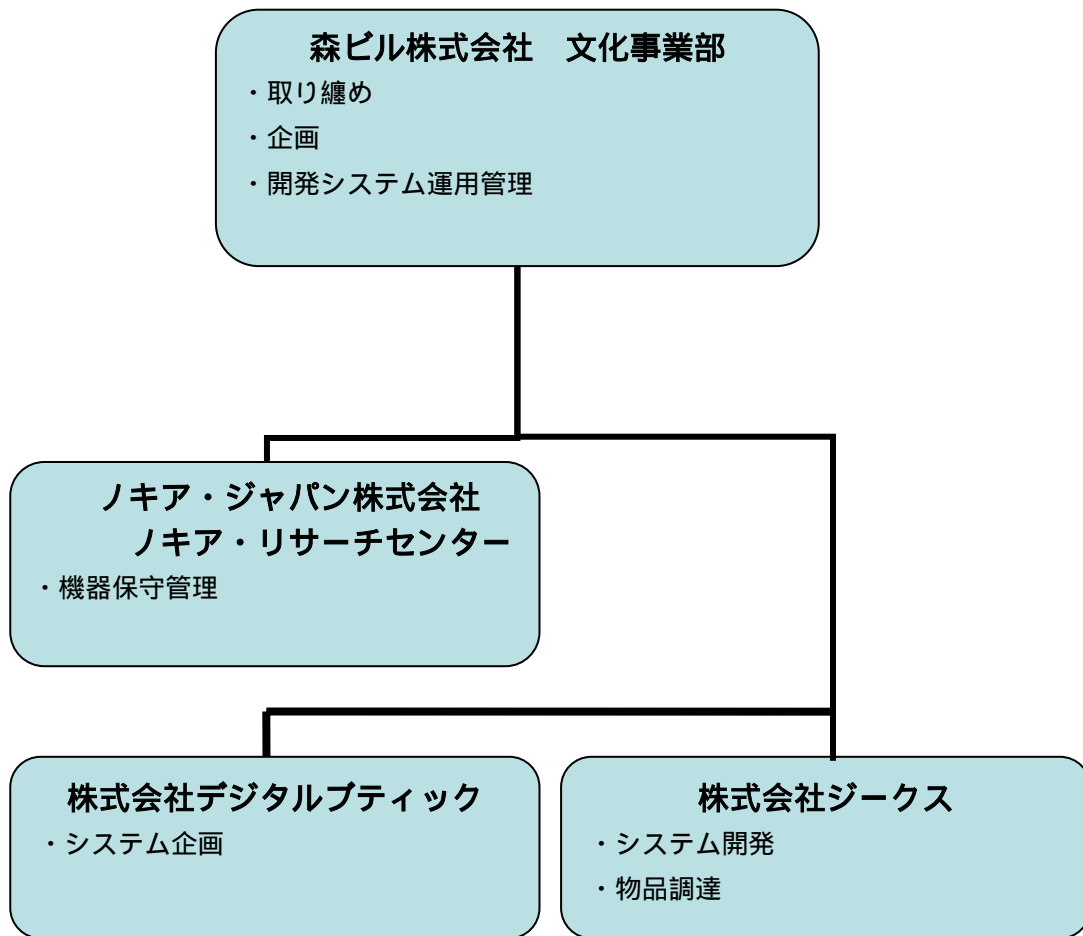


図 1.4-1 体制図

1.5 研究概要

本実証実験では、モバイルIPv6のモビリティ技術を用いたライブ映像配信と端末機器の位置情報管理技術に基づくPUSH型情報配信を実現する実験設備を整備し、実証実験被験者に対して以下のサービスを提供した。なお、実証実験は、六本木ヒルズ（以下「実験対象地区」という）において行うものであり、本設備を利用して評価実験を行った。

なお、モニタとして六本木ヒルズ来訪者 150 名、インターネット利用者 600 名を想定した。

(1) モバイルライブ配信

カメラマンが移動しながら移動カメラ装置を利用して観光客、来街者やインターネット利用者に対しライブ映像を配信する。

(2) 観光ナビゲーション

観光客や来街者が、タブレット型端末を利用して、移動しながらその位置に応じたコンテンツやライブ映像（定点カメラ装置、移動カメラ装置の映像）を閲覧する。



図 1.5-1 実験イメージ

本設備を利用した評価実験により以下の項目を検証した。

- (1) 開発したアプリケーションが生み出す以下の効果を、観光分野に配慮した都市・地域開発の観点から、アンケート等を実施することによって定量的、定性的に測定した。

来街者(観光客)に対する街区内の店舗・施設への誘引効果
来街者(観光客)に対する Wait レス(待ち時間短縮)効果
来街者(観光客)に対する再訪者(リピーター)誘引効果
来街者参加型の街づくり効果
インターネット利用者に対する街への誘引効果

- (2) 開発アプリケーションの実用化に向けた街運営者にとっての課題を抽出した。

導入時の課題(システム導入のコスト)
運営面での課題(運用体制等)

1.6 実施場所詳細

六本木ヒルズ (東京都港区六本木6丁目)

六本木ヒルズは、区域面積約1.1ha、総延床面積は約729,000m²である、国内最大級の市街地再開発事業で、「文化都心」のコンセプトのもと、職・住・遊・文化等が融合した複合都市である。

各施設の低層部には200を超える多彩なショップやレストランが連なり、庭園の緑や中央の広場とあわせて潤いと賑わいのある街並みを形成する。

国際的なトップデザイナーによる洗練されたデザインの各施設と、水と緑豊かな開放的な空間は、これまでにない都市景観を創出するばかりでなく、耐震性に優れた構造等により、安全性についても極めて高い街である。



図 1.6-1 六本木ヒルズ